読書 と 読み聞かせ と 子育て　　飯塚 正栄

「みち子はみち子、どこに咲いてもみち子」

これは、私が育児で迷った時にたまたま読んだ育児書にのっていた一文です。どこに咲いても、その子はその子以外にはなりえない。崖に咲いていた、たんぽぽの種が畑に落ちたからといってバラになれるかというとバラにはならない。たんぽぽは、たんぽぽのままだと。確か、そのような文章だったと思います。

私は、はっとしました。私が育児にイライラしてしまう時は、時間がない時、忙しい時もありましたが、往々にして子供が自分の期待通りの行動をしてくれない時でした。

けれども、どこに咲こうがその花はその花にしかなりえない、言い換えれば、いくら自分が思い描く他の花にしたくても、その子は最終的には本来、その子が種として持っている「個」としての花を咲かせるのだ！という考えをもっていれば、どれだけ育児が楽しくなるでしょう！子供のありのままを認めてあげればいいのだ！育児とはまず、そこから始まるのだと思った時にどれだけ、心の荷が軽くなったか分かりません。

今の時代は文書のみならず、インターネットなどを利用することなどによってあらゆる情報を入手することができるようになりました。このように自由に情報を入手できるようになり、私達はとても便利になりました。そうなると、それは子育てにもあてはまってきます。親は育児に関するいろんな情報を入手できるようになりました。すると今度は親は子供を思うがあまり、その知った情報を自分の子供にも、いち早くあてはめます。それは小さな事から大きな事まで、例えば離乳食を始める時期から歩き出す時期からオムツをとる時期から、しゃべりだす時期から、字をかけるようになる時期から　お稽古ごと、早期教育を始める時期から。それは体力的な事から内面的な事まで。自分がそうだったのですが、子供を思うからこそ、今、この年齢ならこれくらいのことはできるようにしておかないと、もしくは、これくらいのことは「できるでしょ！」と思ってしまうものなのですね。勝手に一般的な枠に子供を当てはめてしまうのです。けれどもそれは全く親の身勝手で、子供にはそれぞれの意志があって、体力や内面の成長にも差があって当然で、できる時期も、できる内容も好きな事も違って当然なのに「スピード重視」のこの時代だからなのか。「待つ」ということが、とても下手になっている自分を感じました。でも本来、子育てで

一番大事なのは、この「待つ」ということなのかもしれません。種が熟して芽をだし花を咲かせるのを待つ。親にできるのは、子供のあるがままの存在をまず認め、必要な指針や助けを与え、見守り、心地よい生活環境を整え、自分が良い手本を示してあげることなのだなと思いました。

もしも、あるがままの自分の存在を認めてもらえず、一般的な枠にはめられ、もしくはそれ以上の事を求められたら、子供は行き場をなくしてしまいます。自分が本来もっている花を咲かすことに力を使えず、不安になり、せっかく芽をだしてもしおれてしまうかもしれません。

昨今、青少年犯罪が増えています。いろんな要因があると思うのですが、その中に親にあるがままの存在を認めてもらえない子供達のストレスや怒りなど、やりきれない思いもあるのかなと思います。それに、スピード化と競争化社会が相成れば、心と体の発達が未成熟でストレスの回避方法もまだ十分に分からない子供達にとって、どれだけの重圧になるでしょう。こんなに残酷なことはないと思います。

どうしたら他人と比較することなく、自分の子供の存在をあるがままに受け入れることができるでしょう？「個」としての存在を尊重してあげることができるでしょう？

それには、まず親自身が自分のあるがままをうけいれ、認めてあげる事、自分の「個」としての存在を受け入れ、自分自身を愛してあげることではないかなと思います。

「コップの中がいっぱいにならなければ水が溢れ出てこないように愛も自分自身というコップがいっぱいにならなければ外に溢れ出てこない」

これも、私の好きな本の一文です。

他の人を大事にするには、まず自分自身を大事にしないといけない、子育てにおきかえれば、親自身が自分自身を認め大事にすることで、子供を認め「個」として尊重することができるのではないかと思いました。

現在の、情報がめまぐるしく、いきかう日々の中で、私達、親自身が時代に遅れまいとやっきになり、先を先を見る替わりに、今の幸せや自分自身の価値を見失ってしまうことがあるのかなと思いました。そうした中で同じように、自分の子供達にも将来への準備や期待の方が先に立ってしまい、今のあるがままを受け入れるというのが難しくなってしまっているのかなと思いました。

まずは、親自身が、大きな事ばかりに目をむけず、日々の当たり前の日常を大切にし、自分自身を大切に認め、そんな自分を見守り支えてくれる家族や周囲の人に感謝し大切に

する。そんな中なら、子供自身も自分を大切に思い、自分自身の花を咲かせ自信も培い、他人も尊重できるような人間に自然と育っていくのではないかなと思いました。

日々の生活の中で簡単に済ませようと思えば済ませられる事、料理や家事などもお金はかけなくても、丁寧に心と時間をかけ、手作りできるものはなるべく手作りすることで、家の中に、温かい心地よい空気が流れてくれたら、それだけで子供も幸せな気持ちになるのではないかなと思っています。

私はこういった事を、いろんな方が書いた本を通して気付かされてきました。気持ちがふさぎこんでしまったりした時などに、本を読む事で自分と向かいあったり、気分転換できたり、元気がでてきたりした時が何度もありました。それで自分の子供にも小さい時から眠る前には本をなるべく読んであげてきました。たいした事をしてあげているつもりはなかったのですが、二人目の子供が生まれて手が掛かった時、以前より本を読む機会が減ると、上の子は布団の中で「どうして本を読んでくれないの？私のことはどうでもいいんだね」とシクシクないていたのです。自分からしたら読み聞かせなんて、ほんのささいなことだと思っていたのに自分の為にお母さんが本を読んでくれている、時間を割いてくれている！と、子供にとっては大きな愛情表現の一つに受け取られていた事にとても驚きました。それからは上の子と下の子と一冊ずつは、眠る前になるべく読んであげるようにしています。逆に一冊ずつでは終わらない、いえ、終わらせてくれない事の方が多いのですが。。。

読み聞かせも、人によっていろんな方法、こだわりがあり、最近、私が読んだ読み聞かせの本には、文の終わりの母音「あいうえお」の言葉を伸ばすように読むと温かみがまし、語りかけ口調になると載っていました。なるほど！と思いました。

また、読み聞かせを通じて、お年寄りの方達と楽しいひと時をすごす本も見つけて読んだ所、これも素晴らしい内容で、興味が沸き、自分もいつかそんな活動をしてみたいなと思いました。

読書からは子育てについてのヒントを得、読み聞かせからは子供との温かい時間の共有という贈り物を得ることができました。これからも、本からだけでなく、日々の生活の中で一つ一つの出会いを大切にし、新たに発見し感じた事柄を家族や他の方達と分かち合っていけたらなと思っています。ゆっくりと。